

オピニオン

食の支援 最期の時まで

提言

「人生最後の日に食べたいものは何ですか」。皆さんはこの質問を聞いて、好きな食べ物や飲み物を思い浮かべたのではないのでしょうか。ご家族の最期の時も同じように、「最期はおいしいものを、好きなものを食べさせてあげたい」と思うのではないのでしょうか。しかし、現実には、胃ろう栄養（胃に穴を開けて、チューブで栄養剤を流す栄養補給法）や点滴だけで最期を迎える方も少なくありません。

厚生労働省の2011年人口動態統計によると、日本人

一般社団法人ゆにしあ代表理事



いけだ ゆりこ
池田 百合子

の死因の3位が、脳血管疾患を抜いて肺炎となりました。肺炎のほとんどは高齢者であり、「肺炎は高齢者の友」とまで言われるようになってきました。その原因として一番多いのが、食べ物や唾液などを飲む際に誤って気管に入ってしまう誤嚥（ごえん）性肺炎です。

ご存じのように、本県の高齢化率は全国第5位（2010年国勢調査）と高く、肺炎の問題は人ごとではありません。高齢などで「食べられない」という問題が増える中、お年寄りらの食を支えている

のは介護をしているそれぞれのご家族です。3世代同居率が全国1位（同）、共働き率が2位（同）とされる本県は、働きながら介護をしている方も多いため、食と介護を取り巻くこうした状況は今後の大きな課題となってくると思われます。

自宅での介護に対応するため、訪問診療や看護・介護などのサービスが増えている一方で、1日3回の食事を支える家族へのサポートは十分ではありません。高齢者の一人暮らしや高齢者世帯向けのお弁当を配達するサービスなどが増えています。が、状態に合った安全な食べさせ方や料理の仕方を身に付けることができれば、状態の悪化を防ぎ、介護を少しでも楽にすることができるようになります。

食事介助と調理トレーニングの「ゆにしあ」は、ご家族が安心して介護ができるよう、自宅訪問を通して、簡単な安全な食事の食べさせ方や調理の仕方を、ご家庭の状況に合わせて提案・練習をする活動に取り組んでいます。活動を通して「おいしい」は単なる味の感覚ではなく、ご家族と過ごす楽しい環境があつてこそだと感じています。最期の時まで「おいしい」を実現するために、ご家族を含めた食のサポートがもっと必要ではないでしょうか。

（山形市在住）

死因の3位が肺炎に ■ 家族は悩まずに相談を